



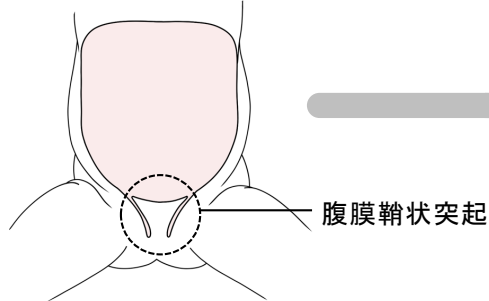
そけい こどもの鼠径ヘルニアと水腫

● 鼠径ヘルニア・水腫とは

- 一般的に、胎児の身体が形作られる際にお腹の底に腹膜鞘状突起と呼ばれる小さな袋ができます。この腹膜鞘状突起は通常、生後まもなく自然閉鎖(図1)しますが、残存することで問題となる場合があります。
- 鼠径ヘルニアと水腫は、袋の中に脱出したものにより区別されます(図2)。
- 鼠径ヘルニアは、腹膜鞘状突起の中にお腹の中の臓器が脱出した状態です。多くの場合、臓器は脱出したり、もとに戻ったりを繰り返し、症状は鼠径部腫れだけです。しかし、脱出した臓器が、袋(ヘルニア囊)の入口(ヘルニア門)に挟まれ、血が通わなくなる状態(嵌頓)となることもあり、放置すると脱出した臓器が壊死したり、場合によっては命に危険を生じるため、治療が必要です。
- 一方、水腫(男児では精索・陰囊水腫、女児ではヌック管水腫)は、袋の中に腹水が溜まった状態です。多くの場合、見た目の問題ですが、鼠径ヘルニアに進展することもあり、治療を検討します。

図1: 腹膜鞘状突起について

胎児期にお腹の左右の底に小さな袋(腹膜鞘状突起)ができる



通常、腹膜鞘状突起は生後まもなく閉鎖する

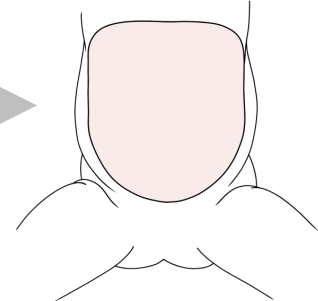
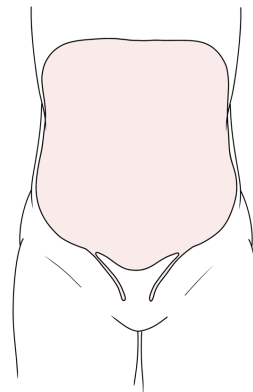
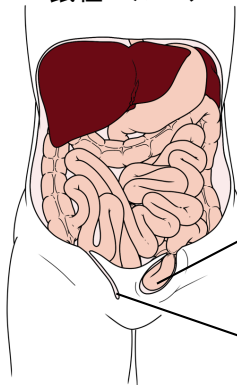


図2: 鼠径ヘルニアと水腫の違い

腹膜鞘状突起が残存

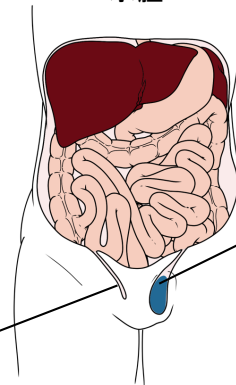


鼠径ヘルニア



お腹の中の臓器が脱出

水腫



腹水が貯留

症状がない方の腹膜鞘状突起は閉鎖していることも残存していることもある

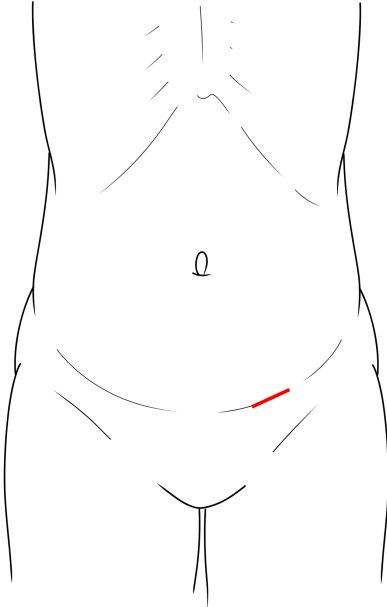


こどもの鼠径ヘルニアに対する手術

● 手術の方法

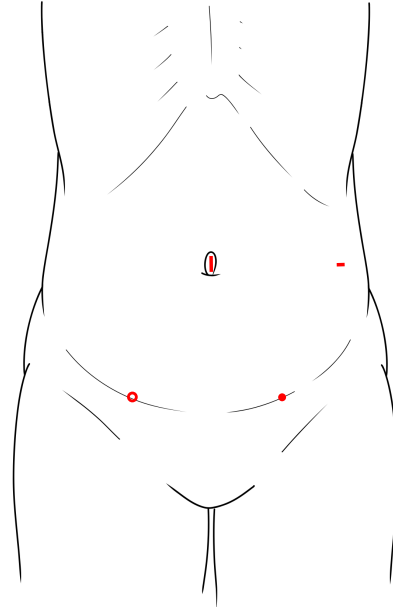
□ 従来から行われている鼠径部を切開する手術(図1)と、腹腔鏡を使用した手術(図2)の2つがあり、いずれの手術でも袋の入口を閉鎖することで症状をなくします。最近では腹腔鏡下手術が多いですが、こどもの状態に合わせて、また、ご希望に合わせて手術方法は選択します。

図1: 鼠径部切開手術



- ・ 患側の下腹部に2cm程度切開
- ・ 袋を同定し、その基部を閉鎖

図2: 腹腔鏡下手術



- ・ 臍を5mm程度切開し、腹腔鏡カメラを挿入
- ・ 左腹部に3-5mm程度切開し、手術器具を挿入
- ・ 腹腔内から患側の袋の入口を確認し、専用の針を使用して閉鎖
- ・ 対側も確認し、入口があれば、同様に閉鎖

・ 長期の実績がある	良い点	・ 対側も観察でき、対側発症のリスクを減らせる ・ 傷が目立ちにくい
・ 対側発症の可能性がある ・ 腹腔鏡手術に比べて、傷は大きめ	悪い点	・ 腹腔内で操作が必要 ・ 鼠径部切開に変更となる可能性がある

● 手術の合併症

□ 一般的に報告されている合併症

術中: 出血・副損傷(腹腔内臓器・生殖器・神経・血管) 等

術後: 発熱・疼痛・鼠径会陰部腫脹・感染(創部・腹腔内)・臍形態変化・創部醜形

・再発・男児では精巣挙上/萎縮 等

当院では合併症が起こらないように、様々な対策を取りながら手術と周術期管理を行っていますが、合併症を避けられない場合があり、その際は追加の治療が必要となることがあります。

分からないことや不安なことは
どんどん質問してくださいね

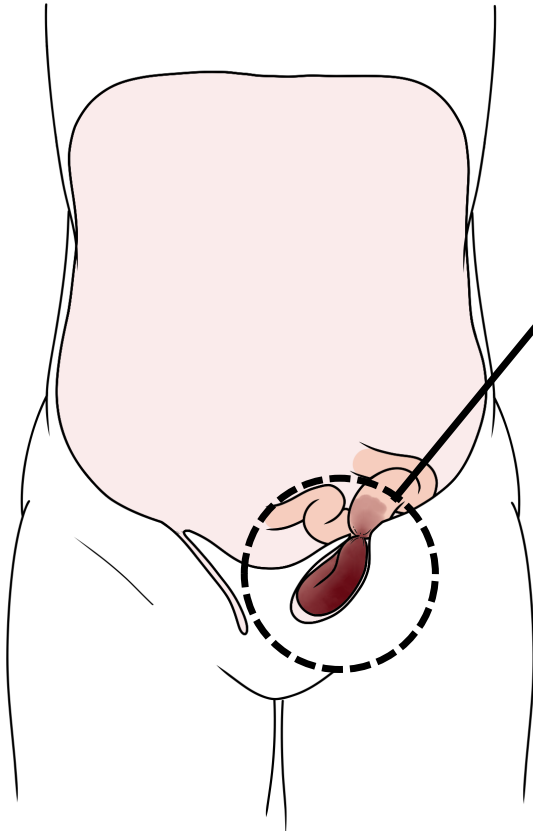




注意!! 鼠径ヘルニアの嵌頓

● 鼠径ヘルニアの嵌頓とは

袋の中に脱出した臓器が、袋の入口に挟まれ、血が通わなくなる状態です。放置すると脱出した臓器が壊死したり、場合によっては命の危険を生じるため、緊急で治療が必要です。



脱出した臓器が締め付けられて、
血が通わなくなっている



放置すると、脱出した臓器が壊死(腐る)



できるだけ早く、臓器をお腹の中に押し戻すために、緊急手術が必要となることもあります

嵌頓の症状

よく
みられる症状

- お腹や股のあたりの痛み(小さい子どもでは不機嫌)がある
- 鼠径部に腫れがある
- 腫れている部分を触ると、硬くて、痛い

ときどき
みられる症状

- お腹の張りがある
- 嘔吐している
- 腫れている部分の皮膚の色が変化している

もし、
「そうかな?」と思ったら、
まず、病院にお電話ください!

問い合わせ窓口
神戸大学病院 小児外科
078-382-5111(代表)

